



# 大賞

## お小夜、狭吾七伝説にせまる

堺 瑞稀

### 一 はじめに

小倉城に行った時、売店にあった『北九州普話』を母に買ってもらいました。その中に『お小夜、狭吾七伝説』というお話がありました。わたしの家の近くにある仲宿八幡宮に二人がまつられていることを知って、びっくりしました。

わたしは、仲宿八幡宮の氏子うぢこで秋のお祭りの相もう大会や、冬のドンド焼きなどいつもお祭りに参加していたのに伝説のことを全然知らなかったからです。

だから、もっとくわしく調べてみたいと思って、取材をはじめました。

### 二 『北九州普話』 お小夜、狭吾七伝説

昔、八幡の前田の村に狭吾七というりっぱな木こりが住んでいました。

ある日のこと、その村に美しい娘じゅん礼がやってきて、観音堂に一ばんとまりました。ずいぶんつかれていたのでしょう。娘は、ひろうがはげしく病気になる、しばらくの間、ねこんでしまいました。美女が観音堂にこもっていることは、すぐ村中に知れわたりました。村の若者達は何とかして自分のおよめさんにしようといういろいろ試みましたが、かの女は観音様の前でおがんばりばかりです。これがかえって評判となり、おとずれる若者が絶えません。若い狭吾七もさそわれて観音堂にやってきました。どうしたことか狭吾七にだけは美しい娘の心がうちとけて、

「わたしの名はお小夜。年は十七才。母といっしょにくらしていました。その母がなくなつて、しょくに、じゅん礼を思いたつたのです。」

と身の上話を始めました。同じようなきょうぐうだと知った二人は、おたがいの心が通じ合うようになりました。

そして狭吾七のかん病のおかげでお小夜の病気はなおり、いつしか二人は仲の良い恋人同士になっていきました。村の若者達はこれをねたみ、狭吾七を殺してしまおうという計画をたてました。八月の仲宿八幡の祭りの夜、狭吾七はけんかをうられ、なぐりたおされ、牛にひかれて前田の浜をひきずり回され、海岸の松の木にくくりつけられかわいそうにも焼き殺されてしまいました。これを知ったお小夜も、狭吾七のあとを追って、あわれにも自らむねをさして命をたつてしまいました。

このことがあってから、村には、い変がおこるようになりしました。牛の病気がはやり、大事な牛がバタバタと死んでいきます。

また、昼間は日本晴れでも夜になると外にも出られぬほどのぼう風雨となる日が続いたり、不思議な火事であくさんの人々が焼け死んでしまうなどの事件が次々とおこったりします。村の人達はこのい変に大変おびえまし

た。これはお小夜と狭吾七のたたりだといううわさが村中に広がりました。そこで村人達は、小さな社をたて二人のれいをなぐさめました。それ以来、村にはい変がおこらなくなつたということです。

この社は、現在、仲宿八幡宮の境内にあります。

### 三 「わがふるさと八幡」を読んで研究!!

わたしは、祖父にすすめられて『わがふるさと八幡』を読みました。すると、新たに分かったことや、『北九州昔話』と話がちがったところがみわかりました。そしてよく分らないところもでてきました。

まず、新たに分かったことは、

- 1 狭吾七は大分県耶馬溪町出身だったこと。
- 2 狭吾七は家が村の年ぐ米を集めて上納する村役だったこと。

ちがっていた点は、

- 1 事件が起こった日は、お祭りの日ではなかったこと。
- 2 狭吾七が殺された後、お小夜は、①むねをさして自

殺②井戸に身を投げて自殺③いずこもなく去っていったという説があること。

ぎ問点

1 前田浜はどこにあるのか。(狭吾七が殺された場所)

2 台良山の牛守神社はどこにあるのか。

わたしは、どうして本によってちがいがいいのか。そのぎ問を解決するために仲宿八幡宮に行ってみることにしました。

四 取材開始！仲宿八幡宮

境内の中を調べてみると、仲宿八幡宮の中には鳥いぐ二つあって、お社が二つありました。お社の一つが、牛守神社でした。

境内の中には、お小夜観音ぼさつとお小夜と狭吾七の石ひがありました。

わたしは、台良の山にあるはずの牛守神社がどうしてここにあるのだろう、お小夜観音ぼさつはどうして鉄でできているのだろうと思いました。

境内の中の牛守神社ご由来しよがありました。そこには、昭和二十八年前田海岸の「和井田ごんげん」と八幡製鉄所の人たちが大事にかばうように守りながら仲宿八幡宮にせん座しました。そして台良の里にあった牛守様と一つの神社にして、ししよにお祭りして今に続いていますというのがありました。

せん座というのは天皇または、仏像、神体の座をよそへ移すことです。

わたしは、牛守様の他に狭吾七が殺された場所に二人がお祭りされていたことやその場所が「和井田ごんげん」という名前だったということを初めて知りました。

わたしは、仲宿八幡宿八幡宮の宮司さんに取材をしてみました。

1 なぜ製鉄所の中に「和井田ごん現」があつたのですか？

2 前田浜はどこにあつたのですか？

3 どうして、せん座したのですか？

4 なぜ合祀したのですか？

5 台良の牛守様はどの辺にありましたか？  
の五つです。

宮司さんのお話しによると

昔は八幡の村には海があつて前田の浜もあつたそうです。狭吾七が亡くなった浜はうめ立てられて製鉄所のしき地になったということでした。それで製鉄所のしき地に「和井田ごん現」があつたのです。

せん座した理由は、製鉄所の中にあるためお祭りのときも決まった人しかお祭りができないから、きちんとした神社に移して誰でも拝んだりできるようにしたほうがいいということからだそうです。

製鉄所構内にあつた時は、お小夜観音菩薩さつからおそなえ物を取ったり、おしっこをかけたたりする人がいました。先礼なことをした人は汽車にはねられて死んだり、ばちがあたつたそうです。

お小夜観音菩薩さつは、八幡製鉄所で働いていた人達が、作つた物だから鉄でできていたんだということも分かりました。

宮司さんはせん座の時の写真を二枚見せてくれました。一枚の写真は白装束を着ている人達の写真でした。

白装束は死者・自決する人などが着る服です。せん座は白装束を着て行われました。運んできた人達は真夜中にねないで運んできました。大事な行事なので車を全て通行禁止にしました。古いお社は全て燃やしたそうです。もう一枚の写真は、せん座終了後、正装での記念さついでした。

宮司さんは、前田浜に行くための地図をくれて狭吾七が殺された所に印をつけてくれました。台良の牛守様は、姉が通っていた平野小学校の上にあつたということも教えてくれました。

#### 五 狭吾七の墓石（前田観音堂）

わたしは、伝説にでてくるお小夜がお泊りしたという前田観音堂を訪ねてみました。

前田観音堂は浄蓮寺の所属仏堂です。観音堂には「お小夜狭吾七の位はい」「お小夜狭吾七の地ぞうそん」が

お祭りされていました。そしてそこには「狭吾七の墓石」がありました。その墓石は、名前もほられてなくとても粗末な石でした。わたしは狭吾七の墓石があるなんてびっくりしました。

墓石は、今、リビオという沢山の家が立ち並ぶ団地の西側の低地にあったといえます。長い年月に無縁仏のようになつて大変粗末になつていたため、大正時代に前田観音堂に改そうしたそうです。

わたしは、これが本当に狭吾七の墓石なのかとうたがいました。

前田観音堂には、だれも住んでいません。観音堂が前田盆踊の時に開くことを聞き前田盆踊の時にきてみようと思いました。

八月二十四日の午後六時から前田盆踊が行われました。

前田盆踊は三味線の音にあわせて、とびはねて踊る踊りでした。

とんだり、はねたりする盆踊りはとてもめずらしく、

狭吾七が旅芸人として、踊っていた踊りが伝えられたと近くにいたおじさんから聞きました。

「もつとくわしく聞きたい時は、浄蓮寺に行つたらいいよ。」と教えてもらい、次は浄蓮寺に行つてみようと思いました。

前田盆踊では前田観音堂の中の観音菩薩と二人の位はいを見ることができました。

六 狭吾七は本当にいた!! (浄蓮寺)

浄蓮寺は、八百年の歴史があるお寺で、八幡西区藤田にあります。緑に囲まれた大きなお寺でドキドキしました。

そして、和尚おしやうさんは前田盆踊の時お堂きやうの中でお経を唱えていた和尚さんだったのでおどろきました。

和尚さんに取材してみました。

1 どうして和尚さんは、前田観音堂でお経をあげていたのですか？

2 前田観音堂に狭吾七の墓石がありました、本当に

狭吾七はいたのですか？

3 二十四日は何でお祭りなんですか？前田盆踊は、二人のく養ですか？

和尚さんのお話しによると、

1の答、和尚さんがお経をあげていたのは、前田観音堂は浄蓮寺の所属だからだそうです。お小夜さんが居たころは、お堂に住職さんがいたのですが、戦争で焼けてなくなってしまったそうです。お小夜狭吾七は仲宿八幡宮と浄蓮寺と二つでお祭りされているということですよ。

2の答、伝説の狭吾七は本当にいた!!といっています。そして、その証を見せて下さいました。過去帳です。過去帳とはその寺にほうむった人の法名、俗名、死没年月日などを書いておく帳面のことです。

天明四年八月二十日

到岸智澤信士

豊前下毛郡

跡田村 沢七

ちゃんと記録されていました。狭吾七が変わったのは、戦前から戦後にかけてからということでした。過去帳に沢七一人の名前しかなかったことから、お小夜さんは、死んだのではなく、どこかに行ったという説もあるのだそうです。

3の答、地ぞう盆が二十四日なのでお祭りがあります。二人の地ぞうがあるので、二十四日は二人のく養もしています。

ということが分かりました。

七 現場をさがしに

狭吾七が本当にいたと聞いて、わたしは台良の牛守様のあったところ、和井田ごん現のあったところ、狭吾七の墓石があった所などを確かめに行ってみたくまりました。

まずは、前田海岸の狭吾七が殺された場所です。製鉄所のしき地内で、入ることができないので、その場所が見える場所に母に連れて行ってもらいました。

わたしの町は、山に囲まれています。海岸があるなんて信じられません。地図をたよりに母と一しょに製鉄所が見えるという公園に行きました。汚くてカラスが何羽もいました。道を通ろうとしてもどかないので走って走りました。とてもこわかったです。木がしげって見にくかったけど、階だんのところから、海が見えました。階だんは急で、落ちそうになったけど、製鉄所も見えました。

ここで、狭吾七が殺されたのかと思うと、つらく、悲しい気持ちでいっぱいになりました。

狭吾七のお墓があったところは団地の西側に歩いていくと、本当にそこだけ低くなっているところがありました。今はアパートが建っていました。

残念なんです。が台良の里は、昔のことをしっていた人が誰もいなくて結局、どこにあったのかは分からないままです。

一つ一つ、なぞが解けていくような感じです。歩いて確かめていくと今とは全然ちがうのに、なんだか昔の様

子が見えるようで不思議な気分になりました。

## 八 最後に

わたしの町の商店街には、「七の市」という売り出しの日があります。商店街のお店の神谷さんは、お小夜狭吾七伝説が有名だからこの名前にしたと話してくれました。

狭吾七は数字にすると「三五七」になります。三つの中で、七という字はラッキー7などいいことを表すから七にしたということ。です。

お小夜狭吾七は、人をにくんで死んでいったけれども、今は地いきの人を見守る神様になりました。

わたしは、取材の中で浄蓮寺の和尚さんが、

「伝説というのは、こうしちやだめですよという次の世代の人に伝えるための教訓みたいになるところもあるの。で、本当はちょっとちがうところもあるかもしれないね。」と話されていたことがすごく心に残りました。

お小夜狭吾七のお話は、人を殺したり悪いことをした

らばちが当たりりますよ。そんな教訓を話しの中で伝えることができます。だから伝説なのかなと思います。

わたしは、今年初めて色々な人に取材をしました。最初に「取材に行つていいですか？」と聞くときははずかしかったけど、とても良い答えが返ってきた時はうれしかったです。地いきの人からも資料をたくさんもらいました。

母と取材にいけたときもあつたけど、一人で行く取材もありました。

仲宿八幡宮の取材の時は、時間におくれてしまいました。わたし一人のために時間をとっているのだから取材の時間はきちんと守ろうと反省しました。おくれても宮司さんは、笑顔で手招きしてくれて本当にうれしかったです。

今年、取材で地いきの人と仲良くなれたり、はずかしがらずに質問してほめられてうれしかったです。知らない場所に行くことはぼう険みたいで楽しかったです。

わたしの町には、もっとわたしの知らないことがある

と思います。この経験を生かして地いきの歴史を調べてみたいと思いました。